

2006年9月25日

森中特別顧問、日露投資フォーラムスピーチ（9月6日）原稿

ロシア NIS 貿易会、通称 ROTOBO の副会長を務めております森中
でございます。近年のロシア経済の好調をうけ、トヨタ、日産、い
すゞなどの自動車会社、松下など家電各社のロシア進出に象徴され
ますように日本の大企業のロシア進出が始まり、両国間の経済関係
が拡大しようというこの時期に投資フォーラムを開催することは誠
に時宜を得たものであります。さて今回
の投資フォーラムに先立ち、日本で関係者が
集まりロシアビジネス拡大のための総決起大会を行って参りました。
その席で私からは貴国が新しいロシアに変貌しているにも拘らず、
相変わらずロシアを昔のソ連という目で見ている日本人が多く、お
互いにかみ合っていない面があることを指摘し、今回日本の皆の力
を結集し、相互理解に努めようと発破を掛けて参りました。一方、
ロシアが世界に占める地位は向上しており、こういう時こそロシア
にも謙虚にビジネスインフラの基盤作りに注力して頂きたいと考え

るものです。日本の技術、ロシアの資源、エネルギーを組み合わせれば必ずや相互に利益のあるビジネスモデルが作れるものと期待しております。

さて ROTOBO は事業の一環として日本企業にロシアの貿易・投資事情につき情報提供を行い、ロシアへのミッション派遣、日本へのミッション受け入れなどを実施しております。ミッション派遣では今年5月にエラブガ、ゼレノグラード経済特区視察、7月に極東港湾視察のミッション派遣を実施致しました。また両国企業のビジネスマッチングを目指したコンサルタント業務、セミナー開催なども行っております。近年は当会の会員数が増えており、会員数は130社を超えました。

さて昨年は両国間の貿易高が100億ドルを越え、史上最高となり、今後もその拡大が期待出来ます。投資に関しては複数の資料があるようですが昨年のロシアへの投資受入額は国連の資料によると260億ドルで2004年比109%の増加ですが他方近年景気に翳りの見える中国は2004年比横ばいの600億ドルとなっており、プーチン大統領以下関係者の皆様のご努力の賜物と敬意を表したいと思います。

一方、ロシアへの日本企業の投資は増えているとは言え、伸びゆくロシアの経済力、両国の潜在能力を考えますと現在のレベルはその能力を汲み尽したものと決して言えません。つきましては今日は折角の機会でもあり、両国の投資関係拡大のためにロシア側に要望したい事項を幾つか述べさせていただきたいと思います。

第一に各種行政手続きの透明化、簡素化です。この点においては近年改善が見られるとは言え、現在はスピードが求められる時代であり、特に各種許認可、通関手続きの透明化及び簡素化をお願いしたいと思います。また法制、税制の整備はもとよりその透明性を高めていただくことを是非お願い致します。

第二にロシアへの投資に際し、窓口となる機関の機能充実であります。これは投資に関わる情報提供、事業会社設立に関わる諸手続きのコンサル業務、当事者間で問題が発生した場合の仲裁業務などの充実であり、中東欧諸国の例などを参考にしていいただければと思います。日本企業を始め、外国企業は事情のわからない国への投資には及び腰であり、また一たび問題が発生した場合に解決方法を一緒に考えてくれる信頼出来る相談相手がおられませんと投資に対する意

欲が削がれることをご理解いただきたいと思います。まずは手始めに日ロ投資促進機構の強化を図っていただくことを是非ご検討頂きたいと思います。

第三にインフラ整備の問題であります。特に工場建設においては水、電気、通信手段の確保などは絶対条件ですがこれを外国企業が自力で手配する必要があるとするとコストの問題は勿論、諸手続きの複雑さによる時間のロスが大きく、投資家の投資意欲が減退してしまいます。また道路、鉄道、港湾などの輸送インフラ整備は私企業だけで行うのは事業採算上、まず無理であり、この点に関するロシア側のご理解をいただきたいと思います。これは経済特区においても同様であり、折角優遇税制などの恩典を用意いただいても必要なインフラが整備されていなければ投資家はより条件の良い他の市場に逃げてしまいますことにご留意頂きたく宜しくお願い致します。

以上、いろいろお願いを申し上げましたがこれは経済発展が著しく、資源エネルギーを中心としてポテンシャルの大きいロシアに対し、我々日本企業が大いに関心を持っていることの証であり、期待の現われでもあります。特にエネルギー資源につきましては貴国は欧州

への優先配分から極東を經由してアジア大洋州地域への供給も拡大するという方針を打ち出されており、我国にとっては大歓迎であります。是非貴国との協力の下、エネルギー供給に関わるインフラ整備にも貢献し、両国とも「WIN-WIN」となるビジネス実現を図りたいと思います。

日本は品質管理はもとより省エネ設備、環境技術などの面でも先進的な国であり、必ずやロシアの発展に貢献出来ると信じております。また日本企業の経験、ネットワークを生かしてロシアで生産した商品を日本のみならず第三国に販売する能力もあります。お互いの強い部分を生かし、弱い部分を補完しあうことで世界でも有数の経済協力関係が築けることを信じ、またその日が近い将来にやってくることを祈念して私の発言を終わります。ご清聴有難うございました。